10代をひとりにしない

認定NPO法人 D×P（ディーピー）

20240508記者会見

今日の流れ

- D×Pの概要について
- 大阪ミナミでのアウトリーチ事業について
  - 立ち上げの経緯
  - フリーカフェについて
  - 「グリ下」の若者の状況について
  - ユースセンターについて
  - これからの展望
- 調査結果について
- 質疑応答
- これからの展望

D×Pの概要

D×Pが取り組む社会課題とは？

10代の孤立

不登校・中退・家庭内不和・経済的困難
いじめ・虐待・進路未定・無業などによって、
いくつかの安心できる場や所属先を失ったときに起こります。

特に日本では若年層に対する予算を割くことが難しく、対応が後手になりやすい分野です。

日本の10代を取り巻くデータ

不登校の小中高生が35万9,623人 ※1
2022年度の不登校の小中高生の人数は2021年度より21.5%(6万3,698人)増加し、**過去最多**

児童虐待相談件数が21万9,170件 ※2
2022年度の児童虐待相談対応件数は2021年度より5.5%(1万1,510件)増加し、**過去最多**

小中高生の自死者数が514人 ※3
2022年度の小中高生の自死者数は統計開始(1980年)から初めて500人を超え、**過去最多**
国際的にみても、10～19歳の死因で自死が最も多いのは先進国(G7)で日本だけ

※1 文部科学省 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より
※2 こども家庭庁 令和4年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値）より
※3 厚生労働省・警察庁 令和4年中における自殺の状況、厚生労働省 令和5年版自殺対策白書 より

ビジョン・ミッション

Vision

D×Pが目指す社会

**ひとりひとりの若者が
自分の未来に
希望を持てる社会**

Mission

D×Pが成すこと

**ユース世代に、
セーフティネットと機会を**

D×Pの歩み

2010年
創業

2012年
事業を定時制高校で
本格スタート

2014年
NPO法人に認証
事業を通信制高校で
本格スタート

2015年
大阪市の認定を受け
認定NPO法人に

2016年
定時制高校で
居場所事業開始

2018年
LINE相談事業開始

2019年
LINE相談の
登録者872人に

2020年
現金給付/食糧支援
PC給付を本格的に開始

2021年
年末年始の
緊急支援を実施

2022年
難波の繁華街(グリ下)で
フリーカフェを設置

2023年
繁華街に集まる若者の
ユースセンターオープン
LINE相談の
登録者13,000人以上に

ユキサキチャット登録者数

13,054人

2020年3月時点では約７００人→約18倍増加

現金給付額

7,545万円

2020年3月時点では約351万円→**約21倍増加**

食糧支援数

204,240食

2020年3月時点では約4,980食→**約40倍増加**

大阪ミナミで
事業が始まるまでの経緯

グリ下、居場所を失くした10代の集まる場所

大阪有数の繁華街である道頓堀のグリコの看板下(通称グリ下)には、**虐待やDVなどで家庭に居場所がなく孤立する若者がSNSを介してつながり集まり**ます。

風俗街もあり、若者が性搾取や犯罪につながりやすい地域です。

大阪ミナミ「グリ下」・東京「トー横」、肩寄せる若者…「家にいたくない」ＳＮＳで集う

2021/11/29 21:19 新型コロナ　この記事をスクラップする

ＳＮＳ上で「グリ下」と呼ばれる場所に、互いに見知らぬ少年少女が集まる現象が起きている。大阪・道頓堀の観光名所であるグリコの看板のたもとだ。新型コロナウイルス禍で、飲食店や商業施設が時短営業や休業を余儀なくされていた今年の夏頃から、若者たちの「居場所」となっている。一方、未成年の飲酒やけんかなど、トラブルにつながるケースもあり、大阪府警は見回りの強化などに乗り出している。（中西千尋）

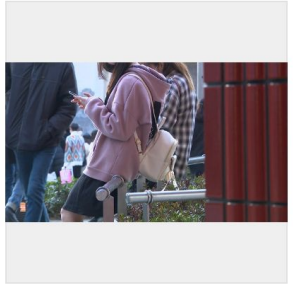
▸子どものコロナ重症例「多臓器炎症」の実態調査へ…全国２０００超の施設対象

⬆️読売新聞　2021年11月29日記事

【ABC特集】「私を引き止めてくれるものって？」　“パパ活”する少女たち　孤独のトンネル

4/21(木) 20:43 配信　6

ABCニュース



中高生の少女に広がりつつある“パパ活”。性犯罪やストーカー被害の危険がある中、なぜ、“パパ活”をするのか。少女たちの本音に迫ります。

スマホで連絡をとる相手は？

⬆️ABCニュース　2022年4月21日

アウトリーチ立ち上げの経緯

繁華街でアウトリーチしたい。
繁華街に来る若者たち、ひとり
ひとりの意思を尊重した上で力
になりたい。

▽

2022年8月から試験的に
フリーカフェ事業をスタート

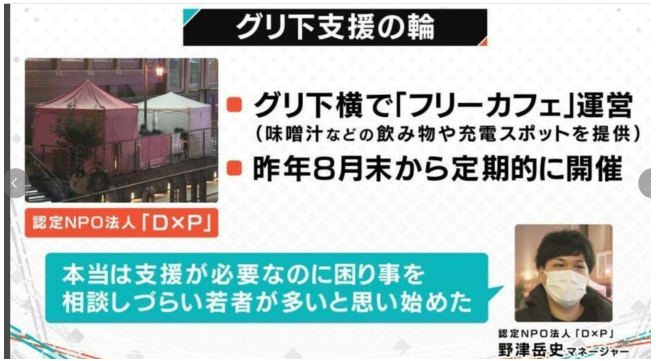
グリ下近くでの
フリーカフェ事業について

街中アウトリーチ事業 概要

D×Pではこれまで出会えなかった若者に支援を届けるため、街中アウトリーチ事業を立ち上げました。2022年8月から大阪ミナミのグリ下の近くにフリーカフェを試験的に設置し、集まる若者の声を聞いています。

フリーカフェの外観です。
若者たちには「ピンクテント」の呼び方が定着しているようです。

フリーカフェではお弁当や飲み物、持ち帰りできるごはん、生理用品、避妊具などを用意しています。



関西テレビ 報道ランナーにて事業が取り上げられました

フリーカフェの外観

フリーカフェで実施している活動

フリーカフェではお弁当や飲み物、持ち帰りできるごはん、

生理用品などを用意しています。

フリーカフェで提供しているもの

雪が降る日もグリ下には若者が集まります。

寒い日には暖かい飲み物を用意します。

クリスマスに合わせてイベントを実施

16日にクリスマスに合わせてテントの飾り付けやパティシエの作った焼き菓子を準備し、プレゼントするイベントを開催しました。焼き菓子と共に配布したメッセージカードには個別相談に繋がるQRコードも添付しています。

数字で見る2022年度の活動状況

フリーカフェ利用実人数：114名
※名前がわかっている方のみ

フリーカフェのべ利用人数：712名

飲食提供数：1099個

生理用品提供数：23個

避妊具提供数：106個

DMのやり取り：**22**名

個別面談実施：**27**回

病院への同行：**7**件

公的機関との連携：**4**件（警察、行政）

民間との連携：**1**件

宿泊支援：**1**件

8ヶ月の関わりで見えてきた
「グリ下」の若者の状況

繁華街にたどりつく若者を取り巻く課題

- **数年単位の長期的な支援が必要**
  - 自分の意見や感情、権利を尊重された経験がほとんどない
  - 基本的な衣食住が整っておらず、頼れる人もほとんどいない
  - 相談することに対してあきらめに近い感情を持っている
- **公共空間ではない、安全に集まれる場所が必要**
  - 興味のあること・やってみたいことを持っているが、実施する機会がない。
  - 犯罪被害に合う危険があることや街の治安上、橋下に集まることに懸念がある。
  - 一方で集まる場所がなくなることによって、

    見えないところで被害に巻き込まれる危険も高くなり、支援も届きづらくなる

ユースセンターが繁華街での新たな居場所に

背景

家族からの暴力/性被害/貧困/知的障害・発達障害などを背景に、家や学校に居場所がない

繁華街が居場所に

居るだけで声がかけられる繁華街は暴力を受けたユース世代の心を満たす面も

繁華街にいる若者におきやすいトラブル

- 犯罪に巻き込まれる（特殊詐欺、薬物）
- 債務を重ねる
- 性的被害（望まない妊娠、性病）
- 若者グループ内でのトラブル(喧嘩、SNSいじめ)

D×Pが提案する解決策-ユースセンターの実践

ユースセンターが繁華街での新しい居場所に

2023年6月に開設。半年でのべ3,000人にアウトリーチ

- **エネルギーを溜められる**（眠る・食べる・相談できる）
- **自立に向けて一緒に考えてくれる人とつながる**
- **自分の意見が尊重され、自治的な経験ができる**

繁華街にセーフティネットをつくる

- 犯罪に巻き込まれづらい/相談できる
- 債務整理のため外部機関に相談できる
- 医療機関を頼れる/回復に向かう
- 話し合える/関係を結び直せる

公共空間ではない、安全に集まれる場所
大阪ミナミにユースセンターをオープン

大阪ミナミのユースセンター

繁華街に新しい居場所をユース世代と一緒につくり、年間延べ3000人が利用する施設に

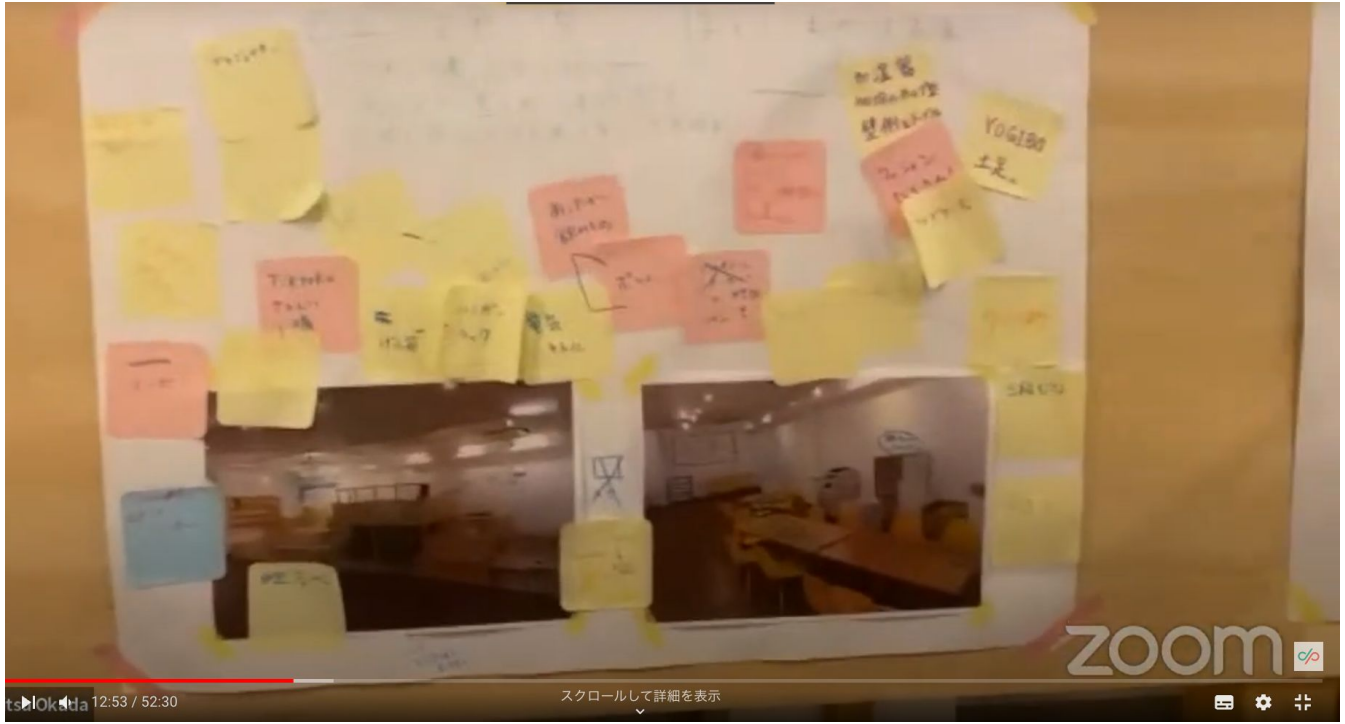
施設のサマリー

場所	グリ下から徒歩5分
広さ	50坪
オープン日	**2023年6月27日**
開所時間	16時～22時 **※夜の仕事をする若者も出勤前に立ち寄れる時間を想定**
開所頻度	週2～3回（体制が整い次第、週 5回開催へ）
施設コンセプト	● 安心できてエネルギーをためられる場 ● 自分の意見が尊重され、主体的に活動できる場 ● 自分の未来について一緒に考える人と出会える場

ユースセンターの内装

2023年6月27日にオープンしました。壁の装飾やデザイン、本棚に何を置くか、など**若者たちと一緒に意見を出しながら内装を充実させる**予定です。

ユースセンターの内装



どんなユースセンターにしたいのか、希望を書いてもらいました。

「TikTok撮影スペースがほしい」「メイクをする場所がほしい」などの意見が出ています。

ユースセンターの内装

ユースセンターの内装

キッチン・調理器具などを揃えています。

「ハロウィン、クリスマスなど、行事に合った料理をつくりたい」

という意見が若者から出ています。

ユースセンターで提供するごはん

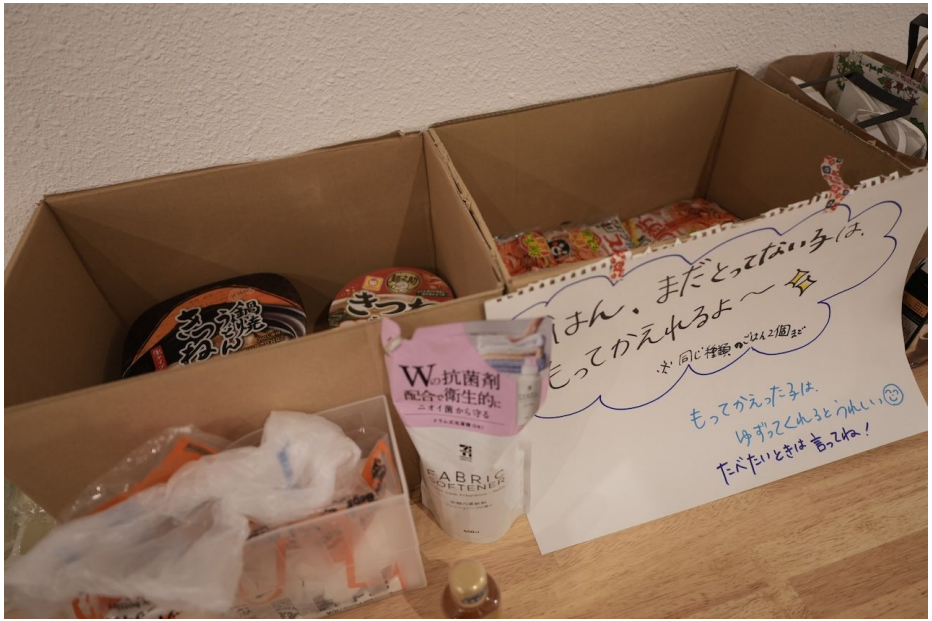
若者が作ったカレー

若者が撮ったごはん写真

冬の季節に合わせたごはん

若者とおしるこをつくりました

ユースセンターの内装



若者が開所日以外、少しでも生活に安心できるように。

持ち帰り用の食品や衣類も常備しています。

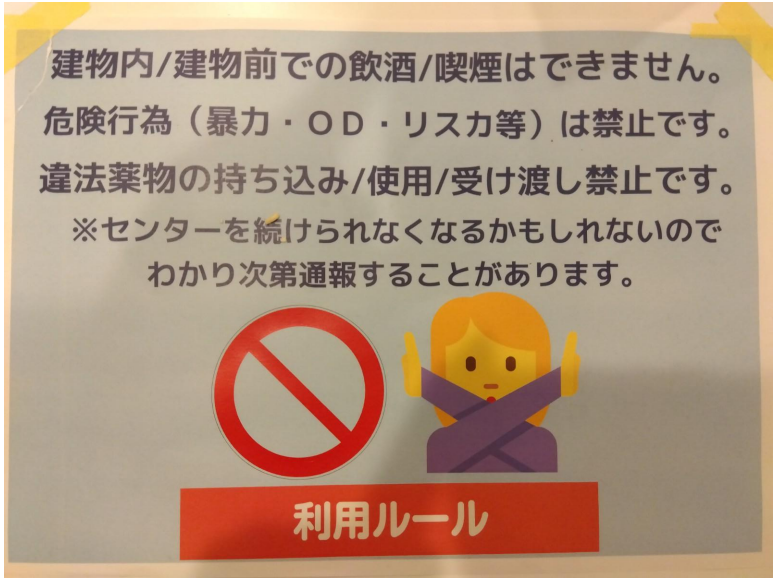
ユースセンターの内装

思い思いにくつろげるスペース。至る所にコンセントを用意しています。

若者にとってスマートフォンは重要なライフラインであり、

どこでも充電できるようにしています。

利用者の安全を守るために



- 禁止行為の周知
- 施設利用規約の作成（作成中）
- 6名以上のスタッフが常駐
- 定期的な掃除、不審物のチェック

医療機関との連携

大阪にてスマルナステーションを運営する株式会社ネクイノ、医療法人 大生曾 さくま診療所と連携しています。

具体的な関わり①

①テント
時間を一緒に過ごす。
雑談や会話で関係性を
築く。

②性関係の相談
連携しているユースクリ
ニック＆診療所に
同行支援。

③もっと話す
生活状況や他の困りをヒ
アリング。
お金と住居での困りを確
認。

④住居支援
安定した住居を持てるよ
うに法律家などの他機
関や不動産会社と連携
して住居の確保。

⑤行政支援
生活保護など国のセー
フティネットにつなげる。

⑥金銭管理のサポート
支払い方法を確認した
り、必要なお金を計算し
たり。もらえる給付金の
申請なども。

⑦医療支援
精神的なサポートとして
医療機関につなげる。

具体的な関わり②

①ユースセンター
時間を一緒に過ごす中で話してもよいと思う関係性を築く。

②面談
少し安心した状況で関わった際に、今の愚痴や悩みを話される。

③アセスメント
家庭が絡むため家庭への気持ちをヒアリング。他の困りも確認し、自立への道筋を見立てる。

④児童相談所と連携
本人の希望を伝えた上で児相と連携。D×Pも一緒に面談等を実施。

⑤家庭への介入
児相と連携し本人に必要なことを保護者と話す。保護者に必要なサポートも検討。

⑥医療支援
保護者、児相と連携し医療につなぐ。

「グリ下会議」に出席しています

グリ下は大阪府知事や市長が視察に訪れるなど**行政から注目されています**。

大阪市が開催するグリ下の課題に対する、府市連携、官民連携による対応を目的とした「グリ下会議」に出席しました。１か月に１回ほどのペースで会合を重ね、具体的な支援策などを検討しています。

ミナミ「グリ下」を府市トップが視察　若者支援や防犯対策を約束

西晃奈　2023年7月19日 10時15分

list　0

大阪市中央区 の 道頓堀 で、夜間に若者が集まるスポットになっている「グリ下」（グリコ看板の下）を18日、 大阪府知事 と 大阪市長 が視察した。府市の両トップは、地元の商店会や警察と意見交換。居場所のない若者を支えるための制度づくりや防犯対策を約束した。

▼朝日新聞デジタル　2023年7月19日

大阪 ミナミ“グリ下”に集まる若者支援へ 初の実務者会議

08月28日　17時39分

大阪・ミナミにあるグリコの看板下の周辺に集まる若者などが、犯罪に巻き込まれるケースが出ている問題について、地元の商店街やＮＰＯなどが対応策を検討する会議が２８日、大阪市で開かれました。

▼NHK 関西 NEWS WEB　2023年8月28日

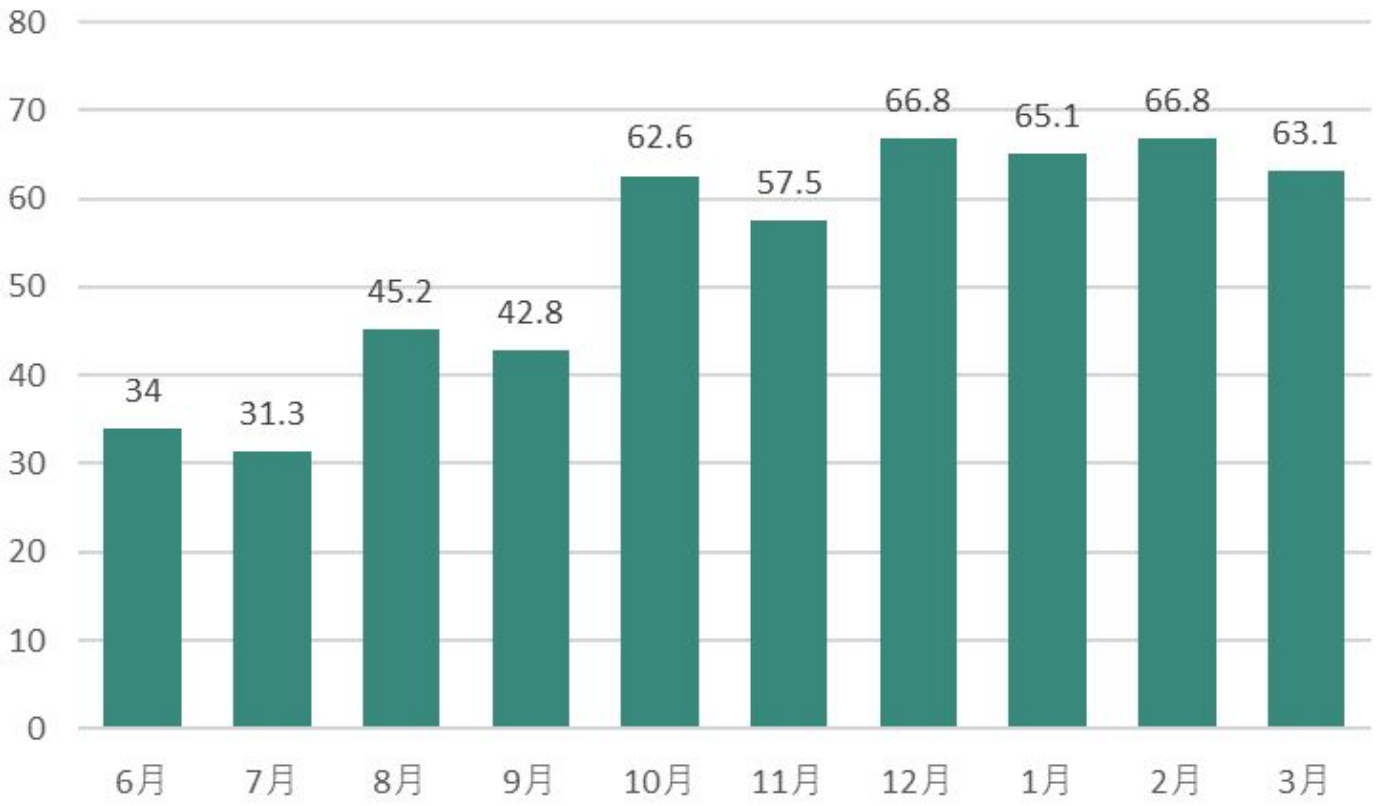
これまでの実績と調査結果

ユースセンターの実績

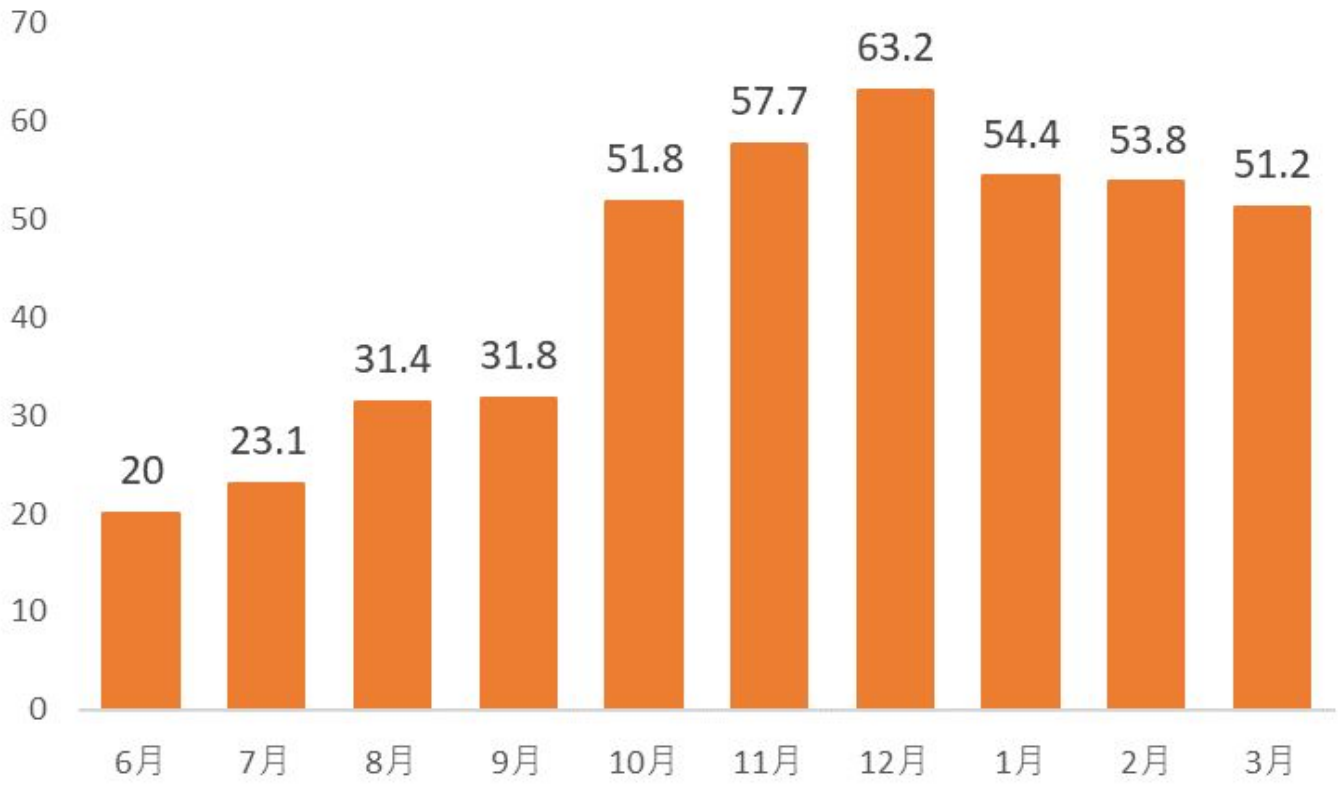
- **定量的な結果**
  - 実施回数：81回
  - 利用者数：4,376名
  - 食事提供数：3,590食
  - 面談：124回
  - 同行：177回

- **定性的な結果**
  - 飲酒・喫煙をしない、ゴミ分別、皿洗いを行うなど場の運営への協力
  - ギター演奏/カードゲームで遊ぶ/イベント企画などやりたいことへエネルギーを使っている

ユースセンター平均利用者数の推移(月別)

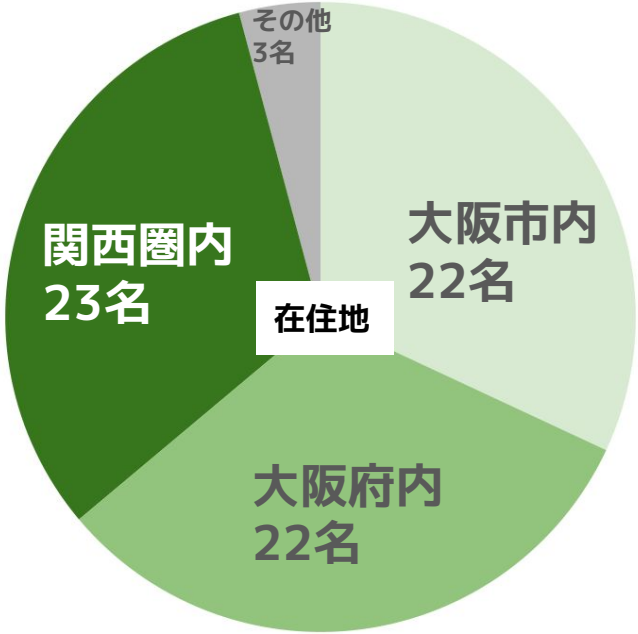


ユースセンター平均食事提供数の推移(月別)



夜のユースセンターに集まるのは、どんな若者たちか①

大阪有数の繁華街である道頓堀のグリコの看板下(通称グリ下)には、虐待やDVなどで家庭に居場所がなく孤立する若者がSNSを介してつながり集まります。DxPでは2023年6月より「夜のユースセンター」を16時～22時で開所し、述べ3000人以上が利用してきました。今回は、「夜のユースセンター」の9カ月間の個別面談の利用者データを分析し、若者たちの背景を調べました(n=70)。

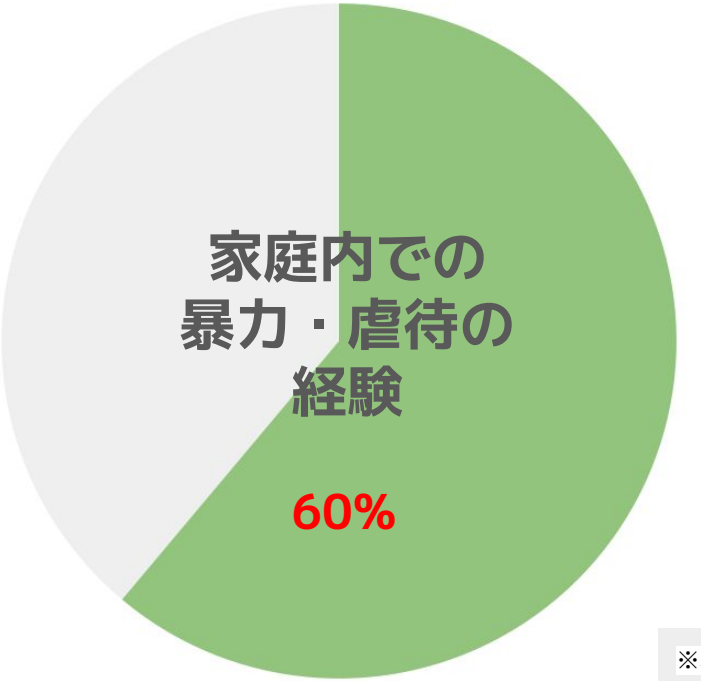


- 特徴は、大阪市内だけでなく、市外の大阪府内の若者、また府外の近隣県などからも若者が集まっていることです。
- **平均年齢は18.1歳**。最小年齢13歳、最高年齢25歳と、小学生～成人までの年齢層の子ども・若者がいます。

※男女比は、本分析では男性20名、女性50名となりました。これは、女性のほうが犯罪被害等の困りごとに逢いやすく、個別面談を受けざるを得ない状況に置かれやすいためと想定されます。

※本分析はn数が少ないため、あくまで参考値となります。実利用者数は764名おり、全体の9%となります。2024年度内に、再度利用者アンケート調査を、より規模を広げて行う予定です。

夜のユースセンターに集まるのは、どんな若者たちか②



ユースセンターや繁華街に集まる若者がトラブルに巻き込まれてしまうことについて「自業自得では」という言葉が向けられることがあります。しかし個別面談のデータを分析したところ、**家庭内での暴力や虐待を受けたことがあるという発言があった方が60%**となりました。

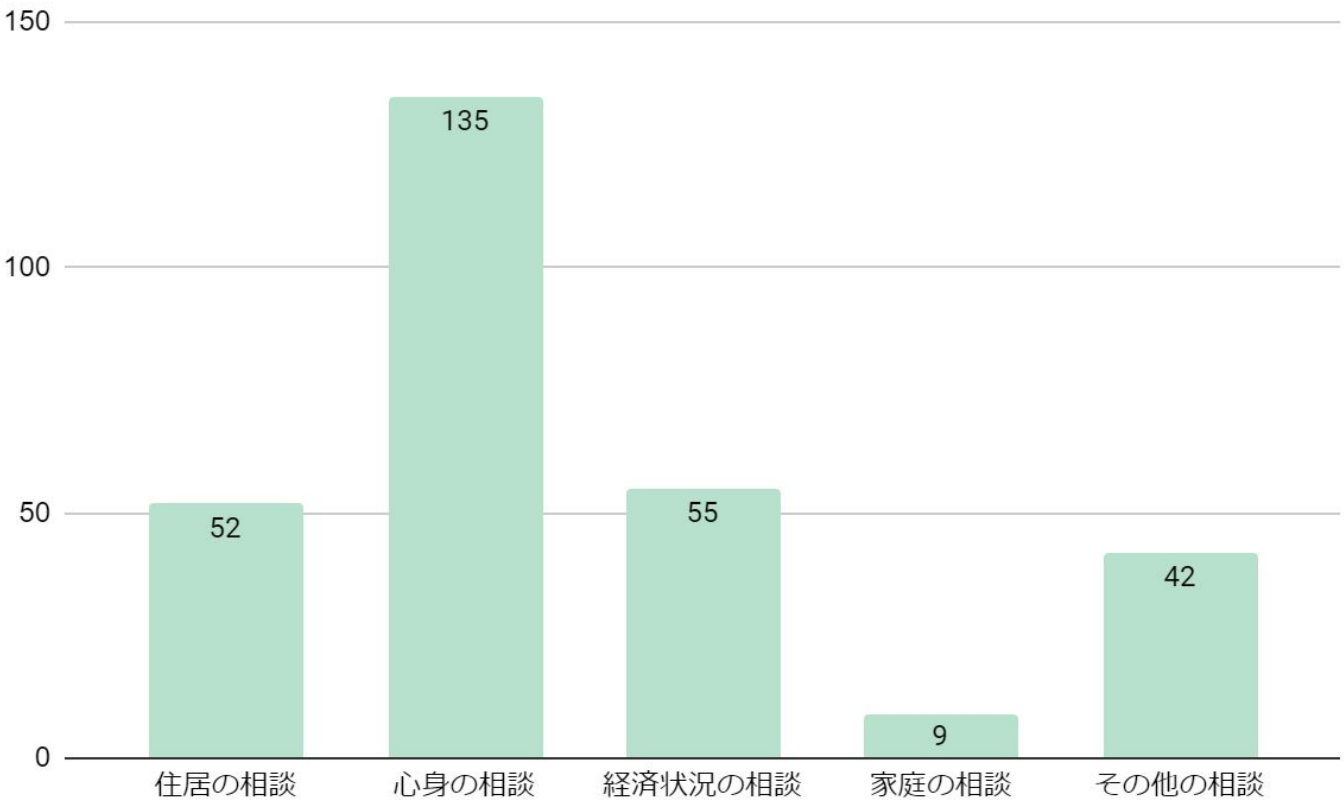
繁華街に集まる背景には、家が安心安全な居場所ではなく、近しい境遇の同年代が多数いる場所に居場所や繋がりを求めているためではないかと考えます。

それ以外にも、医療的なケアが必要な方や経済的困窮状態にある方も多くおり「福祉（児童福祉、居住支援、生活困窮支援）」「医療（精神科・婦人科等）」「法律（債務処理や紛争解決）」などの**複数の分野で連携してサポートすること**が求められます。

※本分析はn数が少ないため、あくまで参考値となります。実利用者数は764名おり、全体の9%となります。2024年度内に再度利用者アンケート調査をより規模を広げて行う予定です。

また「虐待経験63%」のような見出しで記事にできるような数値ではありません。あくまで当事者の背景に想いを寄せていただくための参考値としてお受け取りください。

ユースセンター面談や同行の実績



これからの展望

大阪ミナミのユースセンターの展望

ユースセンターが下記3つを満たすような場所を目指す

1. **「エネルギーをためられる場」**
   - 食事を一緒につくる、食べる、片づける経験
   - ゆっくりできる場所
2. **「自分の意見が尊重され、主体的に活動できる場」**
   - やりたいことを応援する人がいる
   - 場所の運営に役割があり、自分たちで場所のこと、ルールを決められる
3. **「これからについて一緒に考えてくれる人とつながる」**
   - スタッフが常駐し、生活や仕事のこと等をいつでも相談ができる
   - 行政や専門機関への相談同行するスタッフがいる

オープンして間もないため、目指す先が変わる可能性はありますが、
若者のニーズを汲み取りつつ運営していきたい。

2024年度の展望

・利用者数のべ4000人程度となる見込み

・対応記録とデータ収集、アンケート調査→大阪府や市、国へ提言

・生活を伴走する機関との連携強化

・調理等、ボランティアの方々が参加できる仕組みをつくる

D×Pは、13期目の活動に入りました。
若者が未来に希望を持てる社会の実現のため
これからも挑戦していきます。
今後とも応援よろしくお願いいたします。